茨木市立　安威小学校　学力・体力向上ジャンプアップ計画

平成２７年１０月作成

1 今年度の結果と取り組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A
（領域ごと）
①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
概ね良好な結果であった

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
良好な結果であった

③記述式

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
・漢字の読み書きの問題は、正答率が高かった。

・文の構成についての理解は、正答率が高かった。

・無回答率がさがっている。

国語B
（領域ごと）
①話すこと・聞くこと

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項

⑤関心・意欲・態度

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
・概ね良好な結果であったが、「目的や意図に応じ、内容を整理しながら書く」という趣旨の問題の正答率が低かった。

分析
・漢字の読みについては、ほぼ全員の児童ができており無回答の児童もいなかった。しかし、「あびる」の書きの正答率がやや低かった。文の中で漢字の意味を考えて書くことができるように、指導の充実が求められる。
・国語Ａの「話の内容に対する聞き方を工夫する」ことにやや課題が残る結果であった。自分の考えと比べ、共通点や相違点を見つけ出し、自分の考えをまとめるように指導していくことが必要である。
・国語Ｂの設問に対して、記述式の回答は、正答率がやや低く無回答率も他の設問より高くなっている。文章を引用したり、目的や意図に応じて簡単に書いたり、自分の考えをまとめて書くことに課題があり、指導の充実が求められる。

○●算数・数学●○

算数・数学A
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった

②量と測定
やや課題が残る結果であった

③図形
概ね良好な結果であった

④数量関係
やや課題が残る結果であった

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
・整数、分数の計算をすることは正答率が高かった。

・「分度器の目盛りを読み、180° より大きい角の大きさを求める」の設問が、正答率が低かった。

算数・数学B
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった

②量と測定
良好な結果であった

③図形
やや課題が残る結果であった

④数量関係
やや課題が残る結果であった

（問題形式）
①選択式
やや課題が残る結果であった

②短答式
やや課題が残る結果であった

③記述式
やや課題が残る結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
・「平行四辺形を構成することができる、4つの辺の組み合わせを選ぶ」設問が、全員が答えられていた。
・「20%増量した商品の内容量が 480mL であるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く」が、もっとも正答率が低かった。
・「概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、言葉と数を用いて記述する」設問や「長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を、言葉や数、記号を用いて記述する」設問が、もっとも無回答率が多かった。
・算数 B での「わけを書く」設問はすべて、無回答率が高かった。

分析
・算数 A の「量と測定」の領域では、全国平均と比べて、やや正答率が低く課題が残る結果であった。問題を解決するために必要な情報を整理し、示された複数の条件に合う時刻や角度を求めることができていないと考えられ、指導の充実が求められる。計算や測定などを行う際は、処理ができるようにするだけでなく、「1. 見当をつける」「2. 計算や測定を行う」「3. 結果を振り返って確かめる」という一連の動作であることを意識して指導することが大切である。
・算数 B の「単位量あたりの大きさを用いて、目的に応じた買い物の仕方を選択し、代金を求める問題」は全国の正答率よりも高かった。
しかし、示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉え、基準量を正しく求めることができるようにすることに課題がある。
・作図における三角定規を用いた操作の意味を解釈せずに、平行四辺形の性質を選択していたり、示された情報と図形の性質を関連付けて記述できていないと考えられるものがあった。

○●　理科　●○

理科A区分 物質 エネルギー
（単元ごと）

① 振り子
② 電磁石
③ 水の温まりかた
④ 水溶液

（問題形式）
① 選択式
概ね良好な結果であった
② 短答式
概ね良好な結果であった
③ 記述式
大変良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

全体的にほぼ全国平均なみの結果である。
よい結果だった分野として、電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できるかであり、選択式であるが、全国に比べ＋11．2ポイント高かった。また、ものの溶け方の規則性において、析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できるかについても＋11．1ポイント高かった。
課題の残る分野としては、振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方にてきようできるかどうかやメスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱いかたを身につけているかどうかであり、それぞれ－12．3と－9．5ポイントとなった。

理科 B区分 生命 地球
（単元ごと）

① メダカのたんじょう
② 植物の発芽
③ 月の動きや星座

（問題形式）
① 選択式
やや課題が残る結果であった
② 短答式
概ね良好な結果であった
③ 記述式
課題が残る結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

全体的にはほぼ全国平均なみの結果である。
よい結果だった分野として、顕微鏡の名称を理解しているか ＋16．2ポイント 方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できるかは、 ＋16．3ポイントと全国平均に比べ高かった。
課題の残る分野としては、顕微鏡の適切な操作方法を選ぶが、 －13．5ポイント。インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光のあたり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書くが、 －15．3ポイント。水が市場木になる現象について、その名称を書く －11．8ポイントとなった。

分析

学習を通して明らかになった性質や働きを活用することは、どのような性質や働きをどのような仕組みに適用していくのかを考える必要があり、基礎知識の学習を活用する時間の確保が重要である。また、グラフから読み取った事実と、その事実を根拠として解釈したことの記述など科学的思考力や活用力を問う問題において、良好な結果がでた。
ものづくりや、話し合い活動を通して、学習事項を活用する時間の確保と工夫を今後も続ける必要がある。
課題のみれる問題は、主として「知識」を問うものが多い。
今回の場合、「ふりこ」「メスシリンダー」「顕微鏡」といった日常生活ではあまり口にしないよな名称、単語の多い分野であり、そメスシリンダーと顕微鏡においては６年生になるまでに何度も登場をしている学習用具であるので、「なんとなく使えてしまう」ところで終わっている。
理科的用語、取り扱い方など基礎的なことこそ、繰り返し反復ししっかりと定着させる必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・昨年度に比べると国語の正答率は、上がっている。漢字、音読などの家庭学習の定着が考えられる。しかし、国語、算数においても答えを求めるまでに複数の段階がある問題や多くの文章を読んで答えることが必要となるとき、示された情報を整理し、筋道を立てて考え、自分の考えを記述する問題に対して、正答率が低い。無回答率も昨年度より下がっているが、記述式の回答では、無回答もあり課題が残った。

学力高位層と学力低位層についての分析

・学力高位層については、どの年度もほぼ同じ比率である。学力低位層については、過去5年間は、ほぼ同じ割合であったが、昨年度から低学力層の割合が高くなり、26年度も同じ傾向が見られ、学力の二極化が見られた。27年度は、国語については、学力高位層が多かったが、算数においては、低位層・中間層が多数をしめる結果となった。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

「授業改善について」

・児童に学習の見通しを持たせるために、授業スタイルを確立し、どの授業においても実施するようにする。
・自分の考えをまとめて書くことに課題があるので、授業において班学習やペア学習を取り入れ、自分の考えを言えるようにしていく。（発言ルール等の活用）
・担当学年だけでなく系統立てた指導ができるように、授業研究部が中心となり、全教師が他学年の教材研究ができる機会を設ける。
・児童が、次の学習への課題をもっていることや学習の成果を理解していることが、学ぶことに自信と意欲を持つことになる。そのために、授業のめあてとふり返りを大切にした授業展開を考える。
・自分の意見を条件に合わせて書く機会をどの教科でも増やしていく。（字数制限、キーワードとなる言葉や算数用語を入れて説明を書く、二つの文章を比べて書く、文章を引用して書く等）
・生活科や総合学習など国語科以外の教科でも考える力や伝え合う力を積極的に育てる。

「学習の定着を図るために」

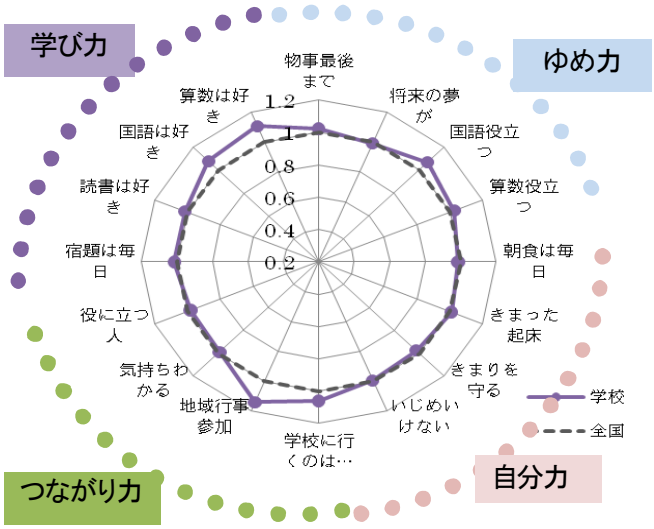
・基礎的な内容の定着を図るために、全学年が繰り返しドリルを活用して朝学習に取り組む。
・図書館支援員と連携し、学級文庫の充実を図り、意欲的に朝の読書ができるようにする。
・PTAや外部のボランティアを活用し、本に親しむ環境整備を積極的に行う。
・中学校区の取り組みを推進し、全学年、学習ルールの確立をめざす。
・教職員で、宿題の交流を行い系統立てた家庭学習が出来るようにする。
・児童が意欲的に取り組めるように、音読指導、日記指導の交流を行い、全職員が共通認識のもと進めていく。
・集中して粘り強く課題に取り組む姿勢をあらゆる教科で培う。
・大阪府教育委員会「力だめしプリント」の効果的な活用を進める。
・保護者への啓発を図るために、学校便りとは別に「まなび安威」を発行する。

「低学力層の指導について」

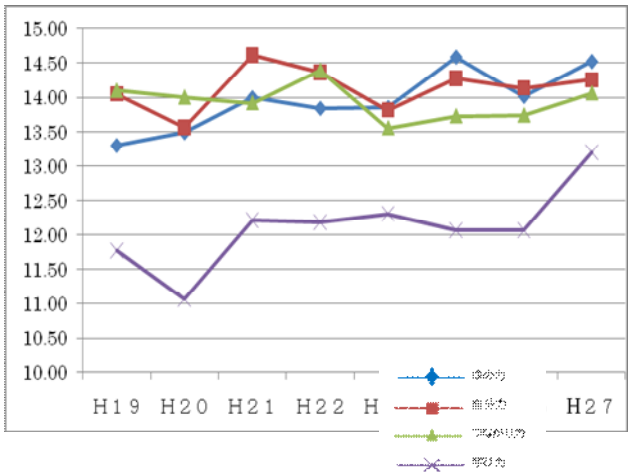
・人権に配慮した学級集団作りを進め、子ども同士の「つながり力」をつけ、どの子も安心して授業に取り組めるようにしていく。
・各学年のつまずきを明らかにして、取り組みを進めるために実態調査を行う。
・専門指導員や関われる職員で、4年、5年、6年の習熟度別指導の充実を図る。
・専門支援員と連携し、休み時間等に学習に課題を抱えた児童が、自分から教えてもらいにいける場所を設定する。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

自分力

結果から学校に行くことに前向きに感じている児童やいじめに対して、否定的に感じている児童が平均以上いることが分かる

学校の実態としては、家庭の協力もあり、基本的な生活習慣は身についている児童が多い。

課題としては、教師の指示を守ろう、守らないといけないという姿勢は見られるが、自発的な行動や発言がよりあればと感じる。

ゆめ力

各項目においても全国平均以上の結果である。授業や自主で学習したことを生活に結びつけ、身近に感じることができているようだ。

つながり力

地域の協力があり、地域行事への参加は全国平均以上に高い。他項目においては全国平均ほどの結果である。

学び力

学習に対して前向きな傾向が見られる。「国語、算数がすき」という項目において全国平均以上に高い。昨年度の辞書を身近なものと認識させる取り組みの結果なのか、言語の項目では上昇傾向である。

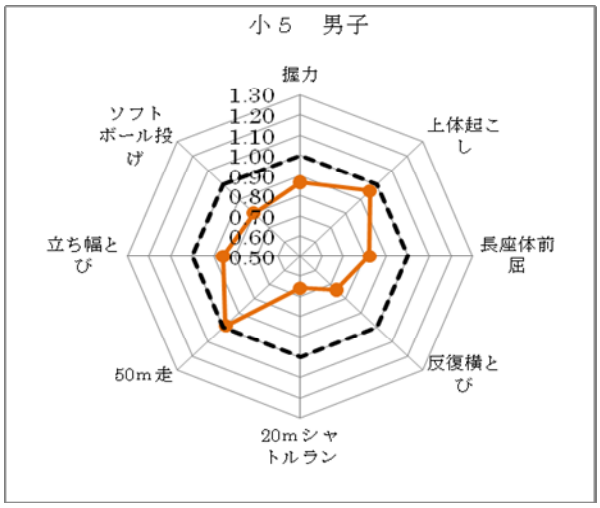
取り組み

・各家庭の協力を得ながら、生活習慣の見直し、チェックをする生活アップ週間
　生活改善→心と体の健康増進→学習意欲の向上
・校内授業研究
・児童発案の委員会活動。
・児童会行事の活用。
・「わからない」が言い合える集団づくり
・月１回のいじめ実態ミニアンケート

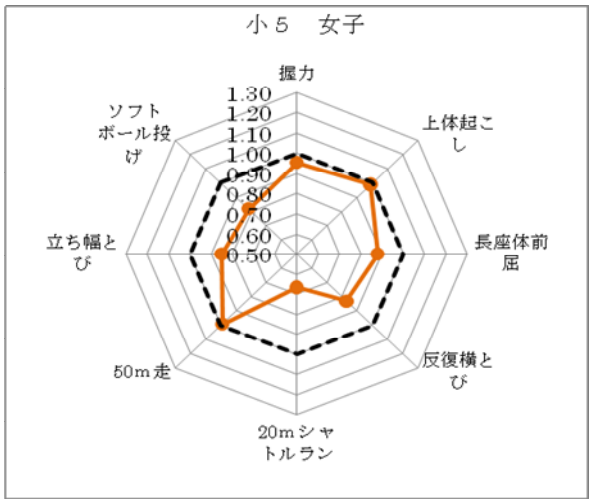
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子（小5）



女子（小5）



※全国平均を 1.00 とした本校の結果

分析

運動やスポーツが好きと答えた児童が男子で 90%女子でも 87%と全国平均より上回っており、さらに、体育の授業も楽しいと答えた児童が多く、全国平均を上回っている。5 年生の児童は運動する機会が多いことと関係してどちらも高い値を示しているように思われる。

しかし、5 年児童に関しては上のグラフのようになっていて、全体的に各種目が全国平均を下回る結果になっている。 4、 6 年男女の結果においても全国平均を下回る結果となった。

どの学年にも共通して言えることだが、全体的にあきらめが早く、しんどいことを避け、自分の力を出し切っていない児童が多く見られる。

アンケートの結果から、運動やスポーツをする頻度、時間が少ない児童がスポーツテストで得点が下位層になっていることも分かった。また、5 年児童は基本的生活習慣がしっかりとしている児童が多くいたが、4 年、6 年の結果と加えると、生活習慣に課題のある児童も見られた。

取り組み

・水泳指導時から体育の準備体操として茨木っ子運動２を活用し、体力テストで全体的に課題に挙がった反復横とびの動きをチャレンジ種目の中から取り上げて行う。
・水泳指導では各学年の泳力目標を設定し、学年で泳力の底上げを図る。
・文部科学省作成の指導資料集「小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック」の活用
・体育教材の整備に児童教師ともに努めること、授業中は説明や話し合い活動中は私語をなくすことで運動量を確保する。そのためにも、今日のめあてや説明が分かりやすくなるように、めあてや目標を提示し、体育館ではホワイトボードを、運動場では運動場用黒板を活用して、声かけだけでなく、視覚的な支援を行う。
・姉妹学級の取り組み（なわとび）
・20 分休みになかよし学級ごとに外遊びの日を設定する。（曜日指定）
・「冬季スポーツ大会」としてマラソン練習・マラソン大会を行う。
・生活アップ週間を学期に１回ずつ設ける。
・他者との比較の中で目標を持ったり、球技などの試合で動き続け、持久力がつくような授業を考案し実施していく。

2 3年間の計画

（各校）　　（ブロック共通）

	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	確かな学力をつける取り組みを進める。	全児童の運動の機会を増やす。	
平成26年度	・授業スタイルの確立 授業規律、ノート指導、ペア学習 班学習、発言ルール ・基礎学力の定着を図る。 朝の学習タイムの活用 「力だめしプリント」の活用 習熟度別指導の充実 家庭学習の充実 ・読書活動の充実 学級文庫の活用・朝読書の充実 図書ボランテアの活用 ・基本的な生活習慣づくり 生活アップ週間 あいさつ運動	・茨木っ子運動２（チャレンジ種目：反復横とび）の講習、体育で実施　◎ ・泳力目標の設定　◎ ・なかよし学級の取り組み（なわとび）◎ ・外遊びの日の設定　◎ ・冬季スポーツ大会の取り組み◎ ・教員の授業力向上（茨木っ子運動２の講習会、丸分かりハンドブック等活用、黒板を活用、視覚支援グッズの活用）○	・集団づくり連携研修(集団つくり・班編成の交流) ・北中ブロック共通実践のふり返り、改善 ・小中合同授業研修(道徳) ・英語教育推進担当者会議(交流、共有教材の作成) ・中学３年教師団の小学校６年授業参観 ・連携担当、学力担当者会議(月に１回) ・出前授業
平成27年度	・授業改善を図る 授業研究、研修会、職員間の参観等 個に応じたきめ細やかな指導 ・基礎学力の定着を図る 問題解決学習の推進 日記、音読指導の充実 業間の補充学習 ・読書活動の充実 読書感想文の書き方の研修等 読書月間の積極的な取り組み ・共に学ぶ集団をつくる。 ・基本的な生活習慣づくり あいさつ運動	・茨木っ子運動を体育で実施 （体力テストの結果でチャレンジ種目を設定） ・泳力目標の設定と精査 ・なかよし学級の取り組みの反省と取り組み内容の設定（なわとび） ・冬季スポーツ大会の取り組み ・教職員の授業力向上 ・新しく入った器械・器具の紹介と活用	・教科別連携研修・会議 ・小中合同授業研修 ・出前授業・参観 (小→中、中→小)
平成28年度	・授業研究の実践と検証 ・各取り組みの検証と改善 ・基礎的な生活習慣作り 業間の補充学習 保護者への積極的な働きかけ ・個に応じたきめ細やかな指導 ・共に学ぶ集団をつくる。	・茨木っ子運動２の講習、体育で実施（体力テストの結果でチャレンジ種目を設定） ・泳力目標の決定 ・姉妹学級の取り組みの反省と取り組み内容の設定 ・遊びの交流と外遊びの成果と課題の検証 ・冬季スポーツ大会の取り組みの成果と課題の検証 ・教職員の授業力向上と今後の課題の検討	・教科別評価の交流 ・小中合同授業 ・小中連携組織の一本化構想